

## 2022 年度実施概要

学校名

洋野町立帯島小学校

採択活動名

身近な森から海を守る意識へ

実施単元 ※実施した単元の数に応じて記載してください

単元名	学年	教科
1. 植樹をしよう	3・4年生	海洋
2. 洋野の海を楽しもう	3・4年生	海洋
3. 高家川の水質を調べよう	5年生	海洋
4. 森と海の間を探る	6年生	海洋

取り組みの概要

## 【3・4年生】

植樹体験活動をするなかで、阿部俊夫先生にわかりやすく説明をしていただき、森の豊かさが海の豊かさにつながることを知ることができた。森林の落ち葉からできるフルボ酸のおかげで、昆布やわかめが鉄を吸収できること、そのおかげでウニも身入りよく育つことを知ることができた。子どもたちは驚きながら森と海の強いつながりと森の大事な役割に気づくことができた。

また、環境アドバイザーの協力のもと、町内の海での体験活動を行った。具体的には、原子内水門の砂浜でゴミ拾いを行った。子どもたちは陸上で人間の活動により発生するペットボトルやプラスチック容器などのゴミが流れついていることを知り驚いた。その後、釣り体験を行った。環境アドバイザーに竿の使い方を教えていただいた。時期が悪く、あまり釣れなかったが、餌となる「コクボフクロアミ」を自分たちで採り釣りをすることで、海洋生物に触れ、海の楽しさを味わうことができた。体験学習後のまとめる活動の中で、海外からもゴミが流れてきていること、海に流れ出たゴミが何年も海を漂うことを知った。体験したことと知識として得たことを合わせて思考したことで、海を守るためにできることは何かを考えることができた。楽しいことができる海、様々な生き物で豊かな海を守るために自分たちにもできることを資料にまとめ、発表した。

## 【5年生】

5年生は、「海を守る」という観点で学習を進めた。ふるさとの川、高家川の源流観察をもとに、「高家川の水はきれいな状態で流れていくのか」ということに疑問をもち、高家川の水生物調査を行った。調査活動では指標に比べ、きれいな川に生息する生き物を見つけることができ、水質の良さを確かめることができた。また、きれいな川で見られ、絶滅危惧種にもなっている「ハナカジカ」という魚を探すことも、子ども達の楽しみになっている。今年度は、ハナカジカを1匹ではあるが見つめることができた。他にも、きれいな川に生息する小さな魚を見つけ、環境衛生課の方からその生態等をお聞きすることができた。

また、科学的にも高家川の水質を調べようと、パックテストも実施した。今回は大雨の影響もあり高

家川でのパックテストは一か所のみ行った。COD（科学的酸素消費量）の結果から水質の良さを確かめることができた。水生生物調査やパックテストの結果をもとに思考を深め、ふるさとのきれいな川をまもるために自分たちにできることを実践しようという意識を高めることができた。

### 【6年生】

6年生は「山・川・海のつながり」をテーマに学習してきた。洋野町のウニは岩手で一番の生産量を誇っている。その生産を支える仕組みである増殖溝や餌である昆布などの海藻が豊富なことを学び、なぜ餌となる昆布が豊富なのかという視点を中心に学習した。川から流れてくる栄養を昆布は必要としており、それを昆布が得るにはフルボ酸が必要であることを調べた。そのフルボ酸は森で広葉樹林の葉が腐植土になる過程でできることを知り、山の役割が重要であることを理解することができた。

豊かな森も洋野町の特徴で、ウニだけでなく、木炭の生産でも日本一を誇っていることを学習した。しかし、木炭を作るためには木を切らなければいけないので、木がどんどん減ってしまうのではという疑問も出てきた。そこで、環境アドバイザーの方にご指導いただき、ただ切るのではなく、木が成長しやすくなるように切る「間伐」などを考えながら切っていることを教えていただいた。また、実際に裏山に間伐作業も一緒に行っていたり、木の環境における役割も教えていただいたりした。

さらに裏山の木の枝を使い、ツリークライミング体験をした。環境における木の役割だけでなく、身の回りにある木を利用したものを知ったり、木を使ったアクティビティを体験したりすることで、森林を守っていくことの大切さを学ぶことができた。

豊かな山・川・海の3つが揃って洋野町を支えていることを学び、自分たちの住んでいる地域の環境を守ることで自分たちの生活が豊かになっていることを知ることもできた。自分たちのできることを考え、暮らし方を工夫し、自然の中で生きていくことを考えることができた。



【5年生：水質調査】



【6年生：ツリークライミング】